

ては、必要だと考えており、利便性や機動性の観点から有効な方法だと認識している。今後も、小型バス等の導入が図られるよう、バス事業者と協議してきたい。



産業・経済・労働

地場産業を担う「人」に対する助成を

村崎 浩史 議員

Q 地場産業に対する支援策として、人材育成への支援を行うべきである。地場産業の根幹は人であるが、人材育成のコスト負担が難しいという声を数多く聞いた。例えば、中小企業大学校やビジネススクールなどでスキルアップを図ろうとする社員が在籍する地場産業に対して、助成制度の新設を検討できないか。

A 市内企業における人材育成のための助成制度については、長崎県の支援を受けることができないかなど相談しながら、導入に向けて取り組みたい。

市内商店街のすべてのLED化改修を!!

永尾 高宣 議員

Q 市内商店街の街路灯がLEDに改修され、多くの商店街が明るくなり喜ばれているが、未だ改修されていない商店街がある。国の補助事業が終わり、更に地元負担が増える中、未改修の商店街は限りなく対応できなくなる。商店街の街路灯は、防犯灯の役割も果たしているため、市の補助金を増やし、全ての商店街の街路灯をLED化することはできないか。

A 現在、商店街の街路灯のLED化の改修工事については、改修工事費の10分の3の補助を行っているが、補助率の拡充については、LED化を進めていきたいという基本的な考えを持っているため、再度庁内で協議し、中長期的視野でLED化を考えていきたい。



ブースとパッケージで売り込め!大村産品

神近 寛 議員

Q 長崎空港には大村市の産品をまとめて販売するブース(店舗)がないことから、市の責任として、空港内に大村産品専用ブースの確保を求めたい。また、観光客が土産物を選ぶ際、パッケージ(包装)の見た目は非常に重要である。そこで、パッケージ専用のデザイナーを招き、商品のグレードアップを図る考えはないか。

A 長崎空港への販売ブースの設置については、今年度中に大村市物産振興協会等の関係団体と調整し、平成28年度に実現できるように最大の努力をする。また、土産物のパッケージについては、商品のグレードをアップさせるには大事だと考えているため、今後取り組んでいきたい。

スポーツ振興による観光交流人口拡大策

大崎 敏明 議員

Q 本市においては、観光だけではない交流人口を増やすことは無理であるため、スポーツ振興に力を

入れて増やすべきである。来年は「ねんりんピック長崎2016」が開催されるため、スポーツコンベンションを視野に入れ、総合運動公園の早期完成を目指すべきではないか。

A 本市はスポーツコンベンションに非常に適していると思っており、スポーツ振興による交流人口の拡大については賛成する。総合運動公園については、議会でも話し合い、財政が将来好転したら、10年、15年かかっても、立派な施設を整備するという大きなスケールで考えたほうがいいと思うている。

市民交流プラザの現況及び今後の活用

城 幸太郎 議員

Q 中心市街地の賑わいを取り戻すことを目的にオープンした市民交流プラザは、入館者12万6,000人と年間目標8万人を超え、親子で遊べる「こども未来館」の利用も盛況である。しかし、有料施設の稼働率については、コミュニティルーム29%、キッチンスタジオ31%、ホール33%と十分とは言えない。積極的な営業及び利用